

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 32

学校名・団体名	阿賀町立上条小学校
HPアドレス	http://www.niigata-inet.or.jp/johjoh-e/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	郷土愛や誇りを育む地域教育カリキュラムの展開
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本研究の意義は、ふるさとを自慢に思う子どもたちを育てるとともに、過疎化・少子化が問題となっている阿賀町の人たちを笑顔溢れる元気づける・勇気づける教育活動を発信し、推進することである。</p> <p>そのために、地域教育カリキュラムを展開し、次の3点が本研究の目的である。</p> <ol style="list-style-type: none">1)ふるさとへの愛着や誇りを育み、未来を切り拓く力を、児童に育成すること。2)地域に開かれた活動を通して、社会性や協調性、他者とかかわる力を、児童に育成すること。3)学校と地域とでWIN-WINの関係を構築し、活動を通して、地域に貢献し、町の活性化に寄与すること。	

1 活動内容および時期

地域教育カリキュラムの3つのプロジェクト（Ⅰ～Ⅲ）で、代表的な取組を以下のように実施した。

Ⅰ「地域探検・再発見プロジェクトA」(平成29年4月～9月)

- ① 低学年：生活科の学習において、校庭や校区内を探検したり、自然観察をしたりする。地域教育カリキュラムの入門期として地域探検を位置付け、自然にふれあいながら地域のよさを学ぶ。
- ② 中学年：理科・社会・総合的な学習の時間において、里山登山を対象に横断的に学習する。地域の自然や名所を探訪し、宝物を再発見する。里山登山では、東蒲原郡自然同好会の方からも実際に現地でご指導いただき、森林や植物について学習する。
- ③ 高学年：理科・社会・総合的な学習の時間において、稲作を通して、新潟県の名産である米について学習する。田植えなどを実際に体験し、実感を通して米作りを理解していく。阿賀町の特色である醸造米や米粉についても学び、理解を深める。
- ④ 全学年：『地域の川に親しむ会』として、全校で学校裏手の常浪川に出かけ学習会を行う。縦割り班交代で「水生生物を調べる」「ライフジャケットを着て泳ぐ」活動を行う。理科教育センターの所員様や保護者ボランティアからご指導・支援いただきながら川の素晴らしさを満喫すると共に、水環境について学習する。
- ⑤ 全学年（及び隣接校）：31年度に統合する西川小学校と合同で、『ウォーキングスクール』を実施する。両校の縦割り班がグループとなり、向ノ島公園や道中で体験活動を行う。東蒲自然同好会の方や保護者ボランティアと共に、自然に親しみ協働学習をする。



Ⅰ「地域探検・再発見プロジェクトB」(平成30年1月～3月)

- ① 全学年（及び隣接校）：『スキー教室』を西川小学校と合同授業で三川温泉スキー場で行う。冬の雄大な自然の中で、地域スポーツであるスキーの技能を習得するとともに、協調性を育む。スキー学校及び地域・保護者ボランティアの方から指導していただく。
- ② 中学年：社会科の学習で、会津藩の西の玄関口として、阿賀野川の舟運で栄えた津川港について学習する。「町観光ガイド」の方から、河港跡周辺を案内していただいたり、船鑑札の実物を見せていただいたりして、歴史遺産を学び、地域のよさを再発見する。



Ⅱ「地域協働・創造プロジェクト」(平成29年5月～11月)

- ① 低学年：生活科の地域探検で採取したよもぎをもとに、保護者や祖父母と協力してメニューを考え調理し、パーティーを実施する。保護者や祖父母と一緒に地域素材を生かしたよもぎ団子づくりを行う。児童の感謝の心を表すと共に、自己有用感を向上させる。
- ② 低中学年：『花いっぱい運動』の一環として、地域の両郷寿会の方々と児童とで花植えを行う。活動を通して植物を慈しむ心を育むと共に、学区のお年寄りとふれあいながら、敬愛の心を養う。
- ③ 中高学年：『特設クラブ活動』として、2学期に「タオルアート」「木工」「切り絵」の3つのクラブを開設する。「ふるさと学習館」「ふるさと大学」「中ノ沢渓谷森林公園」の指導員の方々をお迎えする。地域素材も活用しながら文化祭に向けた作品づくりを行う。
- ④ 高学年：阿賀町の花である「雪椿」を核とする郷土学では、自生している雪椿の特徴を観察し、様々な商品に使われていることを学習する。鹿瀬支所長様を講師に雪椿レクチャーを行う。児童が校区内で集めた雪椿の種から油を搾る活動を、地元企業のご支援で行う。
- ⑤ 高学年：理科の「電気」単元と連動させ、阿賀野川を水源とする「鹿瀬発電所」を見学する。立地条件から地域の特性を考え、見学活動から発電の仕組みを学ぶ。水力発電を契機としながら、理科「人と環境」単元の学習を通して、地域環境保全の取組を行う。
- ⑥ 全学年：『全校栽培活動』として、縦割り班活動で、さつまいもの苗植えを初夏に学校畑で行う。秋には収穫祭として、焼き芋パーティーを開催する。苗植えや水やりの世話、収穫祭の準備では、高学年が低学年を支援することを通して、リーダー性を伸張する。



Ⅲ 「地域貢献・未来志向プロジェクト」(平成29年7月～平成30年3月)

- ① 低学年：地域の駐在所様からの提案を基に、「高齢者交通事故防止運動」の一環で、エコバック資材を使用して、低学年児童がエコバックを思い思いのデザインに仕上げ、作成する。作成した物に反射材を張り、夕暮れ時に身を守るグッズとして、地域の高齢者の方や家族に贈る。当校の文化祭に合わせ、エコバックの贈呈式を行う。
- ② 低中学年：学区の小正月の伝統行事「百万遍」に、低中学年児童と職員が参加する。生活科や社会科の学習と関連する歴史的行事で、地元集う地域の人とかかわりながら、地域の伝統を体感する。地域の伝統行事にふれながら、文化を伝承する気持ちを育む。
- ③ 高学年：町内全小学校の高学年児童が一堂に会する『阿賀町こども未来フォーラム』に参加する。「ふるさと未来にわたしたちができること」をテーマに、ポスター発表やファシリテーションを行う。「町役場」「林業振興会」「地元企業」「公営塾」「地域おこし協力隊」の方々も、児童のグループワークに加わり、町の将来展望や地域貢献の方策について、一緒にアイデアを出したり議論したりする。
- ④ 高学年：総合的な学習の時間の重点単元として、阿賀町をPRする活動を実施する。阿賀町と歴史的に関係の深い福島県に出かけ、「道の駅あいづ」を訪問する。「阿賀町のよさを伝えます！」をスローガンに、道の駅を会場にして、児童が協働して次の4つの活動を行う。
 - 1) 児童が作成した「阿賀町パンフレット」の配付とポスター発表
 - 2) 地域の方の援助を受けて作った米(命名「私たちの輝き」)の販売
 - 3) 学区の方からいただいた「雪椿」の苗木のプレゼント
 - 4) 児童が搾油した「雪椿油」の化粧水としての試しぬり道の駅の支援を受け、駅内の一角をスペースとして、上記活動をする。



2. 成果や子どもたちへの効果

本実践の成果や子どもたちへの効果として、次の4つがある。地域教育カリキュラムの展開について、6年児童の作文、及び道の駅長様からの手紙、他地域の方の新聞への投稿記事を、評価資料として用いる。

(1) ふるさとへの愛着や誇りといった児童の『郷土愛』の醸成

「雪椿と米には素晴らしい特徴がある。だから、たくさんの人に知ってもらって、雪椿油を使ったり阿賀町のおいしいお米を食べてもらったりしたい」などと、郷土の素晴らしさや誇りを実感できた。

「阿賀町のよさをお客様に伝えたい。お客様に阿賀町へきて欲しい」「たくさんの人に、雪椿と米のよさを伝えられてよかった」という、ふるさと阿賀町への愛着や思いが醸成された。

(2) 社会性や協調性、他者とかかわる力といった児童の『自らの生き方を考える力』の育成

「(道の駅で) チラシを配る時は、知らない人に話しかけるのは少し緊張したけれど、一人に話しかけたら、その後は進んでたくさんの人に話しかけることができた」の記述にある他者とかかわる力や、「一人でやれば絶対に終わらなかった。みんなと協力してやったから、このように(活動が)成功した」という協調性が育成された。「みんなで一緒に頑張ることの大切さが分かった」「準備で努力すれば、本番でもうまくいく」「総合の活動を通して学んだことは、準備の大切さと、成功した時の喜び」という人としての生き方にも関わる自己意識が涵養された。

(3) 互いの大切さを認め合う態度や支え合う人間関係といった児童の『豊かな心』の育成

「PRができたのは、いろいろな人が協力してくれたからだ。米のことを教えてくださった方、雪椿の苗をくださった方、雪椿油を搾らせてくれた方々のおかげで、会津の人に阿賀町のよさをPRするための学習や準備ができた」「協力してくださった人たちに感謝したい。協力してくれた人たちがいたからこそ、PRができた。総合で協力してくれる人がいるから、何でもできることを学んだ」「会津の人が笑顔で聞いてくれたから、嬉しい気持ちと感謝の気持ちで終わってよかった。中学校でもその気持ちを大切にしたい」といった感謝の気持ちや他者への思い・関係性の気付きといった態度を醸成できた。

(4) 『食や地場産物を活用した情報』の発信、『学校と地域との協働』による地域貢献

道の駅長様から、「元気なお子様たちの発表、感激いたしました。お客様を前にして堂々と発表する。そして、最後に商品のPRも、買って欲しいというアピールも、すべてにおいて微笑ましくもビジネスマインドに溢れたアクションでした。」という肯定的な手紙をいただいた。また、お客様の中からは、『小学生の地元愛に胸熱く』のタイトルで、新潟日報に投稿していただいた。「一人一人、大きな声でしかも堂々と紹介し、私たちに大きな感動を与えてくれた」というお言葉を記事の内にいただいた。外部評価とも言える以上から、情報発信活動により、地域貢献にも寄与することができたと考える。